



2014年度 京都YMCAサマーキャンプ



第12回 青い空と白い雲のキャンプ報告

日 程：2014年8月23日（土）～24日（日）

行き先：京都YMCAサバエ教育キャンプ場（滋賀県近江八幡市佐波江町）

参加者：小学1～高校2年生 17名

引 率：リーダー8名、ディレクター2名、メディカルスタッフ15名

協 力：日本気球連盟5名、リーダーOBOG6名、ワイズメンズクラブ京都部4クラブ 48名

まずは、大きなケガや事故もなく安全にプログラムが終了しましたこと、報告させていただきます。今回のキャンプでは、以下の通りにプログラムを進めました。

○1日目

京都駅では、たくさんの大人（リーダーやボランティアスタッフ）に囲まれて、少し戸惑い気味の子ども達でしたが、バスに乗ってリーダーの楽しい話やゲームをしているうちに子ども達自身の声が大きくなっていきました。サバエキャンプ場に到着して、おそろいのTシャツを着て出迎えてくれたキャンプ場のリーダーからTシャツがプレゼントされ、早速嬉しいことがあった子ども達でした。昼食をいただいたあとは、楽器作りをしました。夜に演奏会をするために、みんなで楽器を手作りしようというものです。ペットボトルや空き缶を使ってマラカスを作ります。まずは、中にいれる砂や貝殻を拾いに浜へ出て行きました。そして、子どもたちが思い思いに拾い集めたものを使ってマラカスが完成しました。早速振ってみると、思い通りの音がしたものや予想した音とは違った音がして驚いたり、みんなで揃えて振ることで音色が深まったりと演奏会が楽しみになる子ども達でした。

その後、この日の夕食を自分達で作りました。メニューは、スペアリブ（くろちゃんグループ）、南国風焼きそば（みるくグループ）、タコライス（ぱぷりグループ）、パイナップルパウンドケーキ（みかんグループ）を作りました。ちょうどその頃、にわか雨が降り始めてきて炊事場への移動などは大変でしたが、気温がほどよく下がり過ごしやすい気候の中で進めることができました。多人数分の調理をするので予定より少し遅れてしまいましたが、子ども達は最後まで取り組んで作りあげることができました。メディカルスタッフチームもブラジル料理のシュラスコにチャレンジして、子ども達に振舞ってくださいました。食事の際には、グループごとに作った料理のことを発表してもらいました。寸劇、あいうえお作文、替え歌など様々なスタイルで楽しい、そして可愛らしく微笑ましい発表をしてくれた子ども達でした。

夕食後は芝生の広場で輪になって座り、昼間に作ったマラカスで演奏会をしました。1曲目の歌を唄っているうちに、何やら奥から声が聞こえ始めました。それに気づいた子ども達がそのことを意識しながら何度か歌っているうちに、どんどん声が大きくなっていき、ついに誰かが出てきたのです。なんとサバエの地に古くから住んでいたといわれる原住民でした。全身真っ黒で、腰に葉っぱを巻いた如何にも（！）なスタイルで登場した原住民は、子ども達と一緒にゲームをしてくれるとっても友好的な人たちで、子どもたちも大喜びでした。作ったマラカスを使って唄ったりゲームをしたりして楽しく夜を過ごすことができた子ども達は、みんなで次の日の気球やカヌーを楽しみにしながら「おやすみなさい」をして眠りにつきました。

○2日目

1日目は天候が不安定でしたが、2日目は曇り空でしたが清々しい気持ちの良い朝を迎えることが

出来ました。気球を楽しみにしてきた子ども達と芝生の広場に集まって、まずはこのキャンプのテーマソング「青空マーチ」を唄って元気をつけて、浜へ出かけていきました。すると、浜辺には大きな赤いタコの気球が横たわっていました。今にも起き出そうとしているタコを眺めながら、今から乗る気球に心躍らせる子ども達でした。グループごとに順番に気球に乗るのですが、いざ乗るとなると少し緊張してしまう子どももいて、リーダーと一緒に勇気を出して乗り込みました。すると、気球独特の「フワッと」浮き上がる感覚を味わいながら徐々に地面から離れていくうちに、見える景色が広がっていき、琵琶湖の向こうまで見えるほどに高さを感じられるのです。また、方向を変えると自分達が過ごしているキャンプ場も見下ろすことができます。見たことのある景色なのに視点が変わるだけで見え方が変わるのも楽しいものです。そんな気球乗船体験ならではの楽しさを感じることが出来ました。

2日目のもう一つのメインプログラムは、カヌーです。みんなで昨日出会った原住民がいるらしいところまで探検に行こう！という名目で、サバエの浜から東へ向かいました。15分ほど漕ぎ進めていくうちに少し広い浜が見えてきました。そこには何やら怪しい船（のように装飾したカヌー）が置かれていて、「きつとここだ！」と決め込んで、みんなでそこへ上陸しました。上陸した先で、何やら楽しそうな声が聞こえてきたのでそこへいくと、原住民が遊んでいました。とても楽しそうで、原住民の誘いを受けて一緒に遊びました。こちらも楽しい遊びを提供して、原住民と再び一緒に交流することができました。すると、原住民が浜に置かれていた船を子ども達に贈りたいと言ってくれ、子ども達も喜んで貰い受けました。そうして乗って帰るカヌーが増えたので、そのカヌーにも分かれて乗って浜まで帰りました。

昼食の後は、2日間のキャンプを振り返る時間を設けました。まずはグループごとにキャンプ場の好きな場所で集まって振り返りをし、それぞれ楽しかったことやできる様になったこと、嬉しかったことなどを伝え合いました。ただなんとなく過ごしてきたことも、振り返ることで改めて実感できることがあるものです。そうしてグループでの振り返りをしたあと、キャンプ全体での振り返りをしました。グループごとに代表して4人の子ども達が発表してくれました。それぞれ、きつととても緊張して発表してくれたのだと思いますが、一人ひとりがこのキャンプで感じてくれたことがあり、それらはどれも何にも変えがたい、その子どもにとってとても素敵なものばかりでした。

2日間を通して、子どもたちは本当に目を輝かせながらいきいきとキャンプに参加してくださいました。お子さんによっては、参加すること自体が挑戦であり冒険のようなキャンプだったことと思います。ひとりではなく仲間と共にするキャンプ生活ならではの楽しさを感じていただけましたら幸いです。また、普段不自由に感じていること、その他様々な思いや感情を持ち合わせている子ども達も少なからず参加してくれているこのキャンプだからこそ、一人ひとりが思い思いに過ごせ、その中で少しでも彼ら彼女らの中での芽生え、気づき、育ちがあればと願っています。何より、YMCAの活動にお子さまをお預けくださいました保護者の皆さまに、心から感謝申し上げます。また、このキャンプに関わる多くの方々と共にキャンプを作ることが出来ました。このことにも感謝いたします。また近い将来、お子さまにお会いできる日を楽しみにしております。ありがとうございました。

報告者 ディレクター中村彰利、渡邊文字